

令和3年度 書道Ⅰ シラバス

科目名	書道Ⅰ	単位数	2単位	対象 部・年次	1・2部 3年次
使用教材					
教科書等	書道Ⅰ（東京書籍）			副教材	なし
学習の目標					
・書くことで文字の美しさを表そうとする書を愛好する心情を育てる。 ・書に親しむ活動を通して、書写能力の向上を図り、自己を表現するための能力を伸ばす。					
学習計画					
学期	学習内容			学習のねらい	
前期	・基本的な用具・用材の理解 ・漢字の書(楷書/行書/篆書) ・創作作品の制作(刻字)			基本的な用具・用材の知識や扱い方に関心を持ち、理解させる。前期では、様々な漢字作品に触れ、臨書学習を通しその作品の技法を学ぶ。 また、文化祭では書道履修者で授業で制作した作品展示を行う。	
後期	・漢字の書(楷書/行書/篆書) ・仮名の書(万葉仮名/変体仮名) ・創作作品の制作(表札)			前期に引き続き、漢字の書の臨書学習から、創作作品の制作に入る。自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する力を身に着けさせる。 また、全体の習熟度に合わせ、仮名の書に入る場合もある。漢字とはまた違った用筆法を学び、鑑賞させる。	
観点別評価及びその配点					
観点	書道への 関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫		創造的な 書表現の技能	鑑賞の能力
趣旨	書の伝統と文化について関心を持ち、主体的に表現し、授業に積極的に取り組んでいる。	書の良さを感じ取り、感性を働かせながら、自分自身の意図に基づいて、表現を工夫している。		書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技法を身に着け、自分なりに表している。	日常生活の書、伝統と文化について幅広く理解し、書の美や良さを創造的に味わっている。
評価の方法	・出席の状況 ・学習の参加状況や態度	・学習の成果 (毎時間提出する作品課題で評価)		・学習の成果 ・小テスト	・考査 (書く能力を問う問題、理論問題を出題)
配点(pt)	200	150		150	500
評価					
観点別評価の合計点(1000pt)により、10段階評価を行う。					
学習のアドバイス等					
1. 毎回の授業にしっかりと出席し、授業内で出た課題をこなすこと。 2. 書道に親しみをもち、意欲的に取り組むこと。 3. 様々な古典作品に触れ、臨書学習を通しその作品の技法を身に着けること。					

令和3年度 書道Ⅱ シラバス

科目名	書道Ⅱ	単位数	2単位	対象 部・年次	1・2部 4年次
使用教材					
教科書等	書道Ⅰ・Ⅱ(東京書籍)			副教材	なし
学習の目標					
・書道Ⅰでの学習を基礎とし、書に親しむ活動を通して、書道Ⅱでは自己を表現するための能力を伸ばす。 ・個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。					
学習計画					
学期	学習内容		学習のねらい		
前期	・漢字の書(楷書/行書) ・展示作品の制作 (古典作品の臨書)		書道Ⅱで学習する中国の代表的な古典(楷書・行書)を鑑賞し、特徴を確認する。また、前期で制作した臨書作品を文化祭の期間作品展示する。		
後期	・漢字の書 (篆書/隸書/楷書/行書) ・創作作品の制作(刻字)		前期に引き続き、漢字の書の臨書学習から、創作作品の制作に入る。創作作品は「刻字」を実施、刻字で用いる用具用材の扱い方に関心を持ち、理解させる。創作作品を制作させることで、作品の鑑賞力を高め、創造力を伸ばす。書道Ⅰよりもさらに多くの古典を学び、さまざまな技法を習得させる。		
観点別評価及びその配点					
観点	書道への 関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な 書表現の技能	鑑賞の能力	
趣旨	さまざまな書の美に関心をもち、多様な書法を意欲的、主体的に学び、古典の美と価値を学び取ろうとしている。	古典の特徴を捉え、習得した技法を、自身の感性を働かせながら、生かしている。	目的や用途に応じた書表現をするために、効果的な表現の技能を身に着けて、表している。	自身の作品や他者の作品を客観的に観察し、その特徴を捉え、自己の作品制作に生かしている。	
評価の方法	・出席の状況 ・学習の参加状況	・学習の成果 (毎時間提出する作品課題で評価)	・学習の成果 ・小テスト	・考査 (書く能力を問う問題、理論問題を出题)	
配点(pt)	200	150	150	500	
評価					
観点別評価の合計点(1000pt)により、10段階評価を行う。					
学習のアドバイス等					
1. 毎回の授業にしっかりと出席し、授業内で出た課題をこなすこと。 2. 書道に親しみをもち、意欲的に取り組むこと。 3. さまざまな作品に触れ、臨書学習を通しその作品の技法を身に着けること。					

令和3年度 ペン字硬筆講座 シラバス

科目名	ペン字硬筆講座	単位数	1単位	対象 部・年次	1・2 部 自由選択科目
使用教材					
教科書等	なし		副 教 材	プリント	
学習の目標					
・文字を正確に、美しくそして能率よく書く能力を身に着けること。 ・硬筆学習を通して、書くことを楽しみ、日常生活に役立つ力を高めること。					
学習計画					
学期	学習内容		学習のねらい		
前期	・基本点画の習得 ・ひらがな／カタカナ ・漢字(楷書体)		まずは基本的な正しい鉛筆・ペンの持ち方、基本点画を習得するとともに、丁寧に書く練習から始め、書く力を高める練習から行う。主に前期は、基本点画からひらがな、カタカナを習得させる。また、普段多く用いられる平易な漢字を点筆順・字形を整えてかけるようにさせる。		
後期	・漢字(楷書体) ・漢字(行書体) ・手紙／宛名書き		前期に引き続き、平易な漢字を点筆順・字形を整えて書く練習を行い習得させる。またその発展として、漢字仮名交じり文を美しく整えて書く練習をさせる。行書体では、楷書体の練習と同様に、字形を整え、美しく書く練習をさせる。楷・行を習得後、現代生活と結びついた「手紙／宛名書き」を学び、習得させる。		
観点別評価及びその配点					
観点	書道への 関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な 書表現の技能	鑑賞の能力	
趣旨	書くことに関心を持ち、硬筆学習を通して「書く力」を身に着け、授業に積極的に取り組んでいる。	硬筆学習を通して、書くことを楽しむ態度・感性を磨き、美しく丁寧に書けるように工夫している。	文字を正確に、美しく書く能力を身に着けさせる。また、技法を習得し、日常生活に役立つ実用的な力を身に着けている。	文字を正確に、美しく書く能力を身に着け、技法を習得するとともに、現代生活に生かせる力を身に着けている。	
評価の方法	・出席の状況 ・授業態度	・学習の成果 (毎時間提出する作品課題で評価)	・学習の成果 ・小テスト	・考査 (書く能力を問う問題、理論問題を出题)	
配点(pt)	200	150	150	500	
評価					
観点別評価の合計点(1000pt)により、10 段階評価を行う。					
学習のアドバイス等					
1. 毎回の授業にしっかりと出席し、授業内で出た課題をこなすこと。 2. 直すべき自分の癖、欠点を自覚すること。 3. 場面に応じた書き方の工夫をすること。 4. 基本的な書き方、ポイントを素直に受け入れ、練習と添削積み重ねること。 ※教材費 500 円程度が必要。教室容量の都合で、受講人数が 24 人を超えた場合は調整をおこなう。					

令和3年度 実用書道 シラバス

科目名	実用書道	単位数	1単位	対象 部・年次	1・2部 2～4年次 自由選択科目
使用教材					
教科書等	なし			副教材	プリント
学習の目標					
・書の伝統と文化を学び、硬筆書写における用具用材の特徴を理解する。 ・生涯にわたって書を愛好する心情を育て、社会人としての将来に役立つ表現と鑑賞の能力を伸ばす。					
学習計画					
学期	学習内容		学習のねらい		
前期	・用具用材の理解 ・基本点画／技法 ・手紙文 ・宛名書き		硬筆に関する用具・用材(鉛筆／ボールペン／万年筆／フェルトペン)の知識や扱い方に関心を持ち理解させる。前期では、主に鉛筆による文字を丁寧に書く練習からはじめ、基礎的な技術を身に着ける。手紙文や宛名書きの練習を行う。		
後期	・手紙/宛名書き ・履歴書 ・社用文 ・ご祝儀袋		前期に引き続き、手紙文や宛名書きを様々な用具・用材を使い比べて練習する。また、履歴書や社用文・諸票記入など、実用書道の技術を高める練習を行う。生活の中の書に求められる技法を学び、あらゆる生活場面で活用している。書が生活のあらゆる場面で生かせることを理解させる。		
観点別評価及びその配点					
観点	書道への 関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な 書表現の技能	鑑賞の能力	
趣旨	美しい文字が書けるように、自己の技量を高めるため、意欲的に授業に参加し、練習に取り組んでいる。	手本をよく観察し、文字のバランス、全体構成等を構想し、工夫して表現できる。	さまざまな筆記用具を用い、それぞれの特徴を生かしながら、その場面に応じた美しい文字を表現できている。	身の周りにある硬筆に着目し、その美しさを味わい、実用書道の機能性や考える力を身に着けている。	
評価の方法	・出席の状況 ・学習の態度	・学習の成果 (毎時間提出する作品課題で評価)	・学習の成果 ・小テスト	・考査 (7・12・1・3月に実施) (書く能力を問う問題、理論問題を出题)	
配点(pt)	200	150	150	500	
評価					
観点別評価の合計点(1000pt)により、10段階評価を行う。					
学習のアドバイス等					
1. 毎回の授業にしっかりと出席し、授業内で出た課題をこなすこと。 2. 直すべき自分の癖、欠点を自覚すること。 3. 場面に応じた書き方の工夫をすること。 4. 基本的な書き方、ポイントを素直に受け入れ、練習と添削積み重ねること。					

令和3年度 書道Ⅰ シラバス

科目名	書道Ⅰ	単位数	2単位	対象 部・年次	3部 3年次
使用教材					
教科書等	書道Ⅰ（東京書籍）			副教材	なし
学習の目標					
・書くことで文字の美しさを表そうとする書を愛好する心情を育てる。 ・書に親しむ活動を通して、書写能力の向上を図り、自己を表現するための能力を伸ばす。					
学習計画					
学期	学習内容			学習のねらい	
前期	・基本的な用具・用材の理解 ・漢字の書(楷書) ・創作作品の制作(刻字)			基本的な用具・用材の知識や扱い方に関心を持ち、理解させる。前期では、様々な漢字作品に触れ、臨書学習を通しその作品の技法を学ぶ。 また、文化祭では書道履修者が授業で制作した作品展示を行う。	
後期	・漢字の書(楷書) ・創作作品の制作(表札)			前期に引き続き、漢字の書の臨書学習から、創作作品の制作に入る。自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する力を身に付けさせる。	
観点別評価及びその配点					
観点	書道への 関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫		創造的な 書表現の技能	鑑賞の能力
趣旨	書の伝統と文化について関心を持ち、主体的に表現し、授業に積極的に取り組んでいる。	書の良さを感じ取り、感性を働かせながら、自分自身の意図に基づいて、表現を工夫している。		書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技法を身に着け、自分なりに表している。	日常生活の書、伝統と文化について幅広く理解し、書の美や良さを創造的に味わっている。
評価の方法	・出席の状況 ・学習の参加状況や態度	・学習の成果 (毎時間提出する作品課題で評価)		・学習の成果 ・小テスト	・考査 (書く能力を問う問題、理論問題を出题)
配点(pt)	200	150		150	500
評価					
観点別評価の合計点(1000pt)により、10段階評価を行う。					
学習のアドバイス等					
1. 毎回の授業にしっかりと出席し、授業内で出た課題をこなすこと。 2. 書道に親しみをもち、意欲的に取り組むこと。 3. 様々な古典作品に触れ、臨書学習を通しその作品の技法を身に着けること。					

令和3年度 書道Ⅱ シラバス

科目名	書道Ⅱ	単位数	2単位	対象 部・年次	3部 4年次
使用教材					
教科書等	書道Ⅰ・Ⅱ(東京書籍)			副教材	なし
学習の目標					
・書道Ⅰでの学習を基礎とし、書に親しむ活動を通して、書道Ⅱでは自己を表現するための能力を伸ばす。 ・個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。					
学習計画					
学期	学習内容		学習のねらい		
前期	・漢字の書(楷書/行書) ・創作作品の制作(刻字)		書道Ⅱで学習する中国と日本の代表的な古典(楷書・行書)を鑑賞し、特徴を確認する。また、生徒同士でできた作品を評価し、鑑賞力を高め、創造する力をつける。また、刻字作品の制作にも取り組む。		
後期	・漢字の書 (隸書/楷書/行書) ・創作作品の制作(篆刻・墨絵)		前期に引き続き、漢字の書の臨書学習から、創作作品の制作に入る。創作作品は「表札」を実施。刻字で用いる用具用材の扱い方に関心を持ち、理解させる。創作作品を制作させることで、作品の鑑賞力を高め、創造力を伸ばす。書道Ⅰよりもさらに多くの古典を学び、さまざまな技法を習得させる。		
観点別評価及びその配点					
観点	書道への 関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な 書表現の技能	鑑賞の能力	
趣旨	さまざまな書の美に関心をもち、多様な書法を意欲的、主体的に学び、古典の美と価値を学び取ろうとしている。	古典の特徴を捉え、習得した技法を、自身の感性を働かせながら、生かしている。	目的や用途に応じた書表現をするために、効果的な表現の技能を身に着けて、表している。	自身の作品や他者の作品を客観的に観察し、その特徴を捉え、自己の作品制作に生かしている。	
評価の方法	・出席の状況 ・学習の参加状況	・学習の成果 (毎時間提出する作品課題で評価)	・学習の成果 ・小テスト	・考査 (書く能力を問う問題、理論問題を出题)	
配点(pt)	200	150	150	500	
評価					
観点別評価の合計点(1000pt)により、10段階評価を行う。					
学習のアドバイス等					
1. 毎回の授業にしっかりと出席し、授業内で出た課題をこなすこと。 2. 書道に親しみをもち、意欲的に取り組むこと。 3. さまざまな作品に触れ、臨書学習を通しその作品の技法を身に着けること。					